

27年度 入社式開催本年度入職の40期生の仲間たち

例年よりも暖かい春を迎え、中庭のチュリップを満開を迎えようとする4月1日、本年度は8名の新たな仲間を迎えることが出来ました。40期生を代表し、橋本理事長が社会人としての一歩を踏み出す決意の言葉を述べ、先輩たちが築き上げた想いを引き継ぎ、「自立と尊敬」そして「チーム」で仕事をすることこそこの日から、体験型の研修を通じて学び始めました。新生会が大切にする「人の痛みを理解すること」を障がい者体験を通して自身の身体と心で学び、どのような生活支援をするか。彼らは、先輩たちから現場を通じて学びます。40期生と共に、いまの介護を考えてみましょう。

※写真▽理事長より辞令交付



エルダーワンポイント研修 ～人財を育てること～



サンビレッジ瑞穂 介護職員
中田 朱美さん

今年度を目前にした3月11、17日にエルダーワンポイント研修を企画、実践しました。新生会のみならず新生メディカルからの参加もあり、計38名の皆さんが参加されました。新職員を迎えるに際し、エルダーとしてどうあるべきか、育成上の不安をどう解決していくことが必要かDVD「介護のしごと」の道しるべ」を教材に意見交換しました。モチベーションを上げ、志高くアンテナも高く張りながら、それぞれの現場に戻って2ヶ月。今をインタビューしました。

○エルダー研修を受けてどうでしたか？

リーダーが多かったので、先輩の話を聞けて、刺激になっています。目指していること、周りの人への伝え方、頑張っていることを聞き、勉強になりました。エルダーとして、頑張ろうという気持ちになりました。

○現在、エルダーとしていかがですか？
初めてエルダーとなり、自分も基本を振り返ることができ、先輩スタッフに相談しながら育成を進めていきました。介護技術から始めて、業務の流れを伝えました。時間が経つてからは、質問に対して、どう思うかを考えてもらうようにしました。5月7日より1人役となり、今後は、一緒に業務に入る中で、技術等の確認をしていきたいと思います。また、困った時の相談役になれるようにしていきたいです。

スキルアップ研修～研修を現場で活かすということ～

4月1～6日までの5日間、座学による講義・体験・演習を中心にスキルアップ研修が行われました。体感を通じた学びから実践力を高め、同期を中心とした仲間作りから、チームアプローチの重要性を学ぶ内容となりました。最終日の介護技術講習は、講義・介護技術の基本的な理解、実技・体験・起床介助から車椅子への移乗介助までの一連の動作、食事介助（全介助）、ポータブルトイレでの排泄介助（一部介助）、緊急時の対応（吸引器の使い方）を行いました。

【学んだ事】

- 利用者が声を掛け、確認して一つ一つの動作を行うことが大切だとわかった。
 - 自分がどのようにしてもらえば、立ち上がりやすいか支えるところはどこかを考えることが必要だと学んだ。
 - 介護技術とは、実際に体を動かし利用者に関わる事が浮かんでいたが、観察や環境調整も大切な技術であると気付かされた。
 - 言葉が出せない、自分の気持ち伝わらない事に、もどかしさを感じた。利用者が我慢していたのではと振り返ることができた。
- 【実践していく事】
- 利用者の習慣にこだわり、価値観を理解し、自分の考えを押し付けない。
 - 利用者の状況を把握、観察する力を身に付ける。できる力を見つけて介助を行う。
 - 声掛け・表情の観察・羞恥心への配慮。
 - ボディメカニクスの活用 利用者・介護者共に負担のない介助。

技術講習の参加者は、16名（40期生6名、中途採用8名、メディカルより2名）。養成校の卒業者は、学校で介護技術の基礎は学んでいるが、一連の動作介助となるとイメージができず、実際どう動いたらよいか悩む場面が見られました。また現場経験者は、実際現場で行っている介助や応用はできますが、介護技術の基本が抜けており、戸惑う場面がありました。現場の中で基礎を一連の行為として結びつけること、介護技術の基本を身に付け応用ができるなど、技術課題が明確になりました。今後も研修部では、生活支援に関する各論介護技術・ターミナル認知症ケアなどについて、研修企画を行っていく予定です。



《写真》入社式：記念撮影

「チャレンジ面談は進んでまか？」

子育てを経験された方、「夏休みの目標、出来てないでしょう」「もう高学年なんだから！中学生なんだから！高校生なんだから！」そんな言葉を「家庭でお使いの事はいいですか？」

また昔「両親にこんな言葉を掛けられた方も多いのではないのでしょうか？」

5月に入り各部門で「チャレンジ面談」が始まっていると思います。皆さんが本年度チャレンジしたいことをシートに書かれ、チームでその目標達成をサポートするために、面談を通して確認していきます。皆さんが記載された目標を大切にすることを私達から社会に発信しませんか？

そんな姿を見て、きつとお子さんや周りも変化していくのではないのでしょうか？是非お年寄りに、社会にそしてあなた自身のために、掲げた目標を大切にすることを心掛けていきましょう。